

不二製油グループ本社 WEB 説明会

不二製油グループの「ビジネスと人権」取り組み

開催日時：2021/4/13（火） 11：30～12：30

プレゼンター：取締役 兼 上席執行役員 最高 ESG 経営責任者 門田 隆司

<質疑応答概要>

Q.不二製油が多くの企業に先駆け ESG へ取り組んできた背景やきっかけは

A.前社長の清水のリーダーシップが非常に大きかったと考えている。清水が進めた、社会課題に取り組んでいくことの重要性の指摘や、不二製油の人を大切にする企業文化を「人のために働く」というグループ憲法のバリューの言葉として浸透を図った取り組みなども SDG s の考えと親和した。また、ESG の活動を進める中で、国内外の多くの有識者の皆様にアドバイスなどのご協力をいただけてきたことも大きかったと感じている。

Q.不二製油は日本では先進的だが、世界の競合と比較し取り組みの水準をどうとらえているか

A.当社の顧客でもあるマルチナショナルカンパニーは、早い時期から先進的にグローバル規模でサステナビリティへの取り組みを行ってきている。そのため当社でも顧客の要求する前提に基づいて取り組みを進めてきた背景がある。そのことから、海外との競合と比べ、当社が大きく劣後しているとの認識はない。

Q.日本のユーザーの動向はどうか

A.COVID-19 の影響もあってか、2020 年度には一段とユーザーの意識、要求レベルも厳しくなっている。また、サステナビリティに関する活動を表面的にやるばかりでなく、検証を求める事例も出始めているなど、内容も深化し海外の取り組み水準をキャッチアップしてきていると感じている。

Q.NGO との対話に関する考え方は

A.当社は様々な NGO と対話、あるいは協働を進めてきた。その中で、NGO の考え方は、欧州などを中心とした消費者・市民の考え方の代弁でもあると認識している。そのため、数年内に起こりうる事業存続のリスクとして捉え、真摯に耳を傾け、対応を進めている。

Q.ESG に関する取り組みの投資効果の時間軸をどのようにとらえているか

A.不二製油では、投資基準を各国資本コストを鑑みて設定しているが、ESG に関する投資はどうしても長期的な目線となってしまうため、ESG の投資効果と資本コストのバランスをどのように取るかは大きな課題と感じている。自身（C“ESG”O）としては、ESG に関連した投資については 10 年程度以内を目安に投資リターンを得ていき、会社の持続的な成長に貢献していくことを基本的な考えとし、経営判断を進めている。

以上